

2022年度・博士課程教育リーディングプログラム
超域イノベーション博士課程プログラム

Basicコース履修生選抜
レポート課題

【 注 意 】

- (1) レポート課題の問題文は、次のページにあります。
- (2) レポート課題の解答は所定の解答フォーマットに入力し、WordファイルとPDFファイルの二つの形式で下記のメールアドレス宛てに二つのファイルを添付して提出してください。ファイルの総容量は50MB 以下とし、ファイルのタイトルは「受験番号 氏名」としてください（例：「1234 山田太郎」）。また、提出する際のメールの件名は「レポート課題 受験番号 氏名」としてください（例：「レポート課題 1234 山田太郎」）。

提出期限： 2022年7月27日（水） 12:00（厳守）

提出先： selection@cbi.osaka-u.ac.jp

- (3) 解答の様式については、所定欄に氏名・受験番号などの必要事項を記入の上で、以下の体裁としてください。
 - ①解答文は日本語で作成すること。
 - ②フォントは11ptを使用すること。
 - ③冒頭にタイトルを記載すること。
 - ④本文は4000字程度とすること。
 - ⑤行間を調整し、重要部を太字にするなど、可読性に配慮すること。
 - ⑥必要に応じて適宜ページを追加すること（ただし4ページまで）。
 - ⑦必要に応じて図表等を含めてもよい（カラー可）。ただし図表の下部に、自作の図表の場合にはその旨を明記し、引用の場合には出典を記載すること。
 - ⑧解答作成にふさわしい資料・データ・情報などを各自で収集すること。解答作成に際して参考としたものは必ず本文中で引用を明示し、その書誌情報・URLなどについて、文末に参考文献リストを付すこと。参考文献リストは字数制限に含まない（すなわち、参考文献リスト部分については4ページを超えてもよい）。
 - ⑨本文中の引用・参考文献リストはハーバード方式で作成すること。

（本文中の引用例）

画面構成理論とは～（略）～である（鈴木 2005 p.7）。

(参考文献リスト例)

教育未来創造会議 (2022). 『我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について (第一次提言)』

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/pdf/ikkatsu_dl.pdf

鈴木克明 (2005). 「教育・学習のモデルと ICT 利用の展望： 教授設計理論の視座から」, 『教育システム情報学会誌』, 22 (1), 42-53.

吉田晴世 (2008). 『ICT を活用した外国語教育』, 東京電機大学出版局. (記載例)

- ⑩提出されたレポートの内容は剽窃チェックソフトにより、不正行為の有無を確認する。剽窃とみなされる事例などについては、レポート審査・面接試験詳細に示すので、必ず確認すること。

レポート課題

【問題文】

近年、深層学習（Deep Learning）の登場により人工知能（AI）関連技術がめざましい発展を遂げている。産業界を中心に既に様々な製品、サービスが登場しており、今後、技術の進展とともにさらに多様な役割をAIが果たすようになると予想されている。一方、AI普及の負の側面として、失業率の増加が懸念されている。ある論文によれば、非定型分析に分類される業務（研究、設計等）の機械化確率（AIによって代替される可能性）が0.65%である一方、定型認識に分類される業務（一般事務、会計、検査）の機械化確率は98%とされている。

AIの普及による雇用への影響について、社会全体への影響と個人への影響に関する視点をともに含めて課題を定義し、その課題に対する現実的な解決方策の一案をレポートにまとめよ。

資料

総務省（2016）.『情報通信白書 平成28年版』

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/h28.html>

高地圭輔（2017）.「日本の経済状況と労働環境の行方」.『研究 技術 計画』,32(1), 39-50.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsrpim/32/1/32_39/_article/-char/ja/

以上